

おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー一部報第 13 号 (8 月 23 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

夏恒例 月山合宿と苗場遠征

7月30日(土)～8月1日(月)に夏恒例の月山合宿に行っていました。天然芝ピッチのある弓張平公園でサッカーをして宿舎は月山志津温泉・・・なんて聞くと、サッカーをどれだけ満喫できるんだろうと胸高鳴るかもしれませんが、**山東選手諸君にとっては戦々恐々のイベント**。現 3 年生も引退式で合宿の辛さについて述べていたっけ (もちろん「その合宿で伸びるから頑張れ」という後輩への激励になっている)。天然芝のある弓張平公園といっても、ピッチを取得出来ていなければ仕方がない。今年はずでに先約があり、山東が取得できたのは芝ではなく苔の生えた下の運動場。「そんな環境でサッカーができるのか」などというクレームは受け付けない。**だってサッカーしに行くのではなく、フィジカル強化のために行くんですから**(だから天然芝ピッチを取得出来ていてもあまり意味がない)。まず恒例の**30分間追い抜き走**から始まり、次も恒例の**坂道ダッシュ&レンジ**。以前から坂道ダッシュはしておりました。もも裏からお尻の筋肉(ハムストリング)が鍛えられ、足が速くなる。去年からはそれにレンジも毎回(坂道を駆け上がった後の下りで毎回)加わる。レンジは、やっている時は気持ちよくやれても、次の日滅茶苦茶足が重くなる。去年は二日目からの選手のテンションはダダ下がりでした。今年もしっかり自分を追い込んでもらう。そして今年はそのに加え、**長井高校顧問のH野先生**から教えてもらったハムストリングを鍛える筋トレを随時入れながら行う。1年生は例年になく明るく(というかペチャクチャおしゃべりしっ放しで)取り組むも、2年生からは明日(自分の体)どうなるんだろうという不安も感じられる。

さて、その初日午前、坂道ダッシュをしていた時間帯は、かなり雨に降られた。びしょ濡れです。苔のグラウンドは、踏みしめるたびに水分がにじみ出る。お弁当を食べようにも、避難できる場所がない。というんで、急きょ午後練習を中止して、宿舎にチェックイン。**午後の練習は宿舎内での体幹トレーニングのみ**となりました。選手にとっては恵みの雨か。

翌日はまず昨年同様**早朝 5:00 から朝連**。正月の越谷西遠征では、過去 5:00 キックオフで練習試合をしたこともある。5:00 から練習は、やろうと思えばできる(思わなければできない/辛い)。**合宿に参加して下さった齋藤 GK コーチ**が一言。「俺が高校の時 5:00 から練習あったら、ボイコットしてたな」。齋藤さん、そんなことないですって。最初から明日は 5:00 からとわかってたら、それに合わせて行動するもんですよ。と書いてて思いましたが、「明日 5:00 から朝連」と言わずに、突然 4:30 くらいに「起床! 今から朝連やるぞ」となったら、これは辛い。そして**午前練習は朝連のみ**で終了。宿舎前で体幹トレーニングを追加ただけで、午前終わり。なんだか書いてて思いましたが、今年の月山は楽勝でしたね。午後は、**112号線から姥沢駐車場までの10kmの山道走破を行う恒例の月山登**

山。例年必ずなんだかんだと理由とつけて走らない離脱者がいるものです。例えば去年は股間がかゆい（ワタコー）だとか、足の指と指の間がかゆい（カツミ）だとか。まあ上記は「盛った」理由ですが、離脱者が毎年一人はいたことは間違いない¹。しかし、**何と立派なこと**に！ **今年は全員が走るとのこと**。みんな、走らないとどんだけ後々まで言われるか、よくわかってる。後藤報道局長にも取材に来てもらい、15:00 スタート。最初、**1年ジャイアントことババ**の暴走があった模様ですが、その後の先頭集団はまあ予想の範囲内。もちろん持久力のある選手は早いのですが、**重力に反して登り続けるゆえか、体重の軽い選手の力走が目立つ**。気温が高いので、灼熱地獄との戦いでもある。**結局何とか全員が完走。誠に残念ながら60分を切った選手がいなかった！ものの、65分を切った選手が8名**。ベジは昨年につき1位。60分切りを狙っていましたがね～。やはりレンジのせいで足がパンパンで、記録が伸びなかったか。2位が**寒河江のwoman-chaser、爪楊枝ことキムタク**。今後は女の子を追いかけるだけでなくピッチ内でも同様の熱意でボールを追いかけてもらいたい（こんなに走れるんだから）。とまあ、都合8名が65分切り。その中で5名が1年生なのが心強い。その5名は来年はぜひ60分切りを目指してもらいたい。二日目夜から、**OBの大築君**（山東62回卒 山形大学4年）が齋藤 GK コーチと入れ替わりで登場し、夜のBBQに参加。

最終日は朝連から始まり、午前練習でも天然芝ピッチが取れていたのので、ゴールを使った2対2などのトレーニングを、気持ちよく行う。午後はまた苔グラウンドに戻りましたが、GKは大築君付きっきりで猛特訓。FPはドリブルゲームという昨年から大切にしている練習などを行って、日程終了。

雨で若干楽になった面もありましたが、**今年の1・2年生、明るく前向きに全日程をこなしてくれた**と思います。特に**1年生が声掛け合って、張り合って、坂道ダッシュ等を行っていたのが印象的**。今年の1年生、サッカーの面では2年生にかなり見劣りするものの、これからの伸びに期待したい。保護者会の皆さまには行き帰りの荷物運搬に際して、ご協力いただきました。差し入れも頂戴しました。今年も「SHOPPING PLAZA ベル」さんのおいしいおいしいスイカを食べることができ、私の胸にも鐘が鳴り響きました。また、保護者会の皆さまから激励金を頂戴いたしました。OB会の皆さまからも差し入れ頂戴しました。そして、旅館のえびすやさんには、おいしい食事と過ごしやすい環境を提供して頂きました。皆さま、ありがとうございました。

8月7日（日）～10日（水）はまたまた恒例の苗場遠征。スキーゲレンデや野外音楽フェスティバル等で有名な新潟県苗場にある、苗場グリーンランドにて行われる伝統ある大会。今年で**30回目**を数える。近年は天然芝や人工芝ピッチを揃える大会が人気ですが、**何と云ってもこの大会は安い、クレー（土）のピッチと言っても質が良い**。というか、毎年ここに書いていますが、山東のレベル、クレーで十分。着こなせない高級品に身を包んだ田舎者になど、なる必要がない。身の丈に合ったクレーコートでサッカーをし、行き帰りは山道の走り。**ストイックな気持ち、ハングリーな気持ちになる最高の環境です**。人工芝や天然芝に行った時、「やった～今日は芝だ」というこみ上げるうれしさを味わえる²。山形のチー

¹ ということは、来年の月山では、この二人が未提出の夏の宿題を終わらせに、月山登山に駆けつけるものと思われます。

² 最近の子どもたちは、良い環境に慣れ過ぎて、天然芝・人工芝を当たり前と思っている節がある。ゆ

ムに結構苗場の魅力を伝えていますが、なかなか賛同者が増えず、もどかしい限りです³。人数が少ない（選手 24 名）ので、**OB3 名マサ（62 回卒）、ヨーティ（65 回卒）、シャモジ（66 回卒）**に来てもらい、マサには GK コーチ兼 B チーム監督をお願いし、二人には故障者がいた時のバックアップメンバーをお願いする。毎年夏・冬・春と OB が快く参加してくれるのは大変うれしい。**6:00 起床、7:00 移動開始、7:30 練習開始という恒例の日程**で全日程を過ごす。

一日目・二日目の結果で三日目・四日目の対戦相手が決まる。A チームは押し気味に試合を進めるもくだらない失点があり、二日目まで 1 勝 2 分け。リーグ 4 チーム中 3 チームが勝ち点・得失点・総得点でも並びましたが、くじ運よく、初の 1 位リーグ進出。B チームは 1 勝 2 敗で 2 位リーグへ⁴。

三日目は朝から大雨。都合良く AB とも遅い試合開始だったので、7:00 移動開始の予定を改め、ゆっくりと 10:00 出発。その頃には雨も上がる。この予定変更が功を奏したか、B 戦では**2 年 7 タルのスーパー FK** がさく裂し、幸先よく B は勝利。この FK、**ゴールまで 25 メートル**はあったでしょうか、ワタルは右利きながら繰り返し左足のキックを練習しており、すでに左足の方が得意になっているのか、ボールを置いてどちらで蹴ってもいいのに左足を選択。しかも、狙うとは思ってもよらない距離（角度はほぼ中央）。そこから放たれたボールは、唸りを上げて相手ゴールに迫り、**ポスト内側に当たりネットに吸い込まれるスーパー FK**。見ていても気持ちが良いのですから、決めた本人はよほど気持ち良かったことでしょう。A は、初戦は「決め切れない⇒そのうち雑になってくる」という試合で引き分けだったものの、2 試合目は気持ちよく複数得点。相手がフィジカルトレーニングで大分疲弊しており、逆にこちらは恵みの雨で比較的フレッシュだったことが功を奏したのでしょうか。**2 年カンタが、ピッチ内でのリーダーシップの面でも、深いアフロキでボールを奪いきる対人の鋭さの面でも素晴らしい働きで、カンタの今後の覚醒を予感させました。**

四日目は AB とも、神奈川県的光陵高校との対戦。第一試合の B は苗場を通して大分粘り強くなってきた印象あり。マサ、ヨーティ、シャモジがミーティングに混ぜてもらってラインコントロールのやり方や声掛け等指導し続けてくれたおかげか、守備の面で連動がみられる（バラバラ感が減ってきた）。勝負強く何とか試合をものにする。**A は勝つと優勝が決まる一戦**。苗場に来始めて長いのですが、そもそも 1 位トーナメントに行ったのも初めて。キジマを擁していた代（60 回卒）などでも、「**勝てそうで勝てない**」のが苗場だった⁵。比較して山東のレベルが上がっている訳はない（確実に下がっている）ので、そこから考え

えに環境に喜ばない（感謝しない）。「なんだ土かよ」と文句だけは言う。山東諸君、こういうサッカー選手にだけは育ててほしくない。もちろん、①故障が少なくなる、②イレギュラーがないのでボールばかり目で追う必要がなく顔が上がる（判断力が鍛えられる）、③雨天時にコンディションを維持できる等の天然芝・人工芝のメリットももちろんありますが。逆に、土で育つと、雨でボールが転がらない中でもプレーできないといけないので、小手先のボールタッチではなく体を入れながらボールキープするスクリーン技術（それを本物の技術と呼びましょう）が身につく、という利点があります。

³ 今年、鶴岡中央さんが初参加されました。歓迎です。

⁴ B は 3 位リーグまで。

⁵ 思い返せばその年（8 年前）、朝寝坊して散歩に間に合わなかった部屋のメンバー数名に、苗場グレンデのある部分まで行って戻ってくる罰走を軽い気持ちで課したところ、戻ってくるまで 1 時間以上かかり、行方不明になったのじゃないかと焦った苦い思い出が思い出されます。ちなみに苗場にはそのキジマらが 1 年の時カオルの代（59 回卒）の 2 年時から行き始め、2 年行くものの、その後 2 年は夏に花巻のフェスティバルを優先し苗場には行きませんでしたので、**苗場には今年で足掛け 10 年、8 度目の出場**となります。

ると、やはり大会のレベルの変化でしょう。ともかく決勝戦を戦う名誉を得る。しかし、この対戦前半、相手アタッカーのスキルとアイデアあふれる攻撃に守備が翻弄、具体的にはワンツーについていけず剥がされ、山東守勢。しかし、最後の最後は堪えていたし、もう少し堪えられるはずだったが・・・得意のミスがらみの自滅の失点で前半0対2。後半メンバーも何人か代わったのか、あまりの歯応えのなさから来るモチベーションの低下か、はたまた体力の問題なのか、よくわかりませんが相手のペースが確実に落ちたこともあり、後半は山東攻勢。最後決め切る力があれば、少なくとも1点は返せました。しかし、そこで決められないのが弱さ。結局0対2で敗戦。**準優勝という結果を残して苗場を後にしました。**

OBの3名本当に助かりました。ヨーティは三日間行き帰りの山道も走破しました。お疲れ様！3名のOBありがとうございました。また、宿泊したモンテローザさんには、温かいおもてなしお気遣いを頂き、感激致しました。ぜひぜひ来年も宿泊させて下さい。本当にありがとうございました。

山東サッカーフェスティバル(OB戦) 今年も盛会

8月6日(土)恒例の山東サッカーフェスティバル(OB戦)が開催されました。理由は定かではありませんが、私が現役の時はナイターサッカーと呼んでいました。照明をつけてのプレーがよほど珍しかった時代ゆえの命名でしょうか⁶。ともかく、**OBと現役入り乱れてのサッカーの後、中庭で佐門のモツ煮を食べる**のは不変！今年も盛大に開催されました。

プレーしたという意味では、上は山東35回卒のお二方から下は卒業したての66回卒まで、幅広いOBが結集。**35回卒は齋藤さんと野口さん**。運動を継続して行っていることをうかがわせるキレのある動きをされていました。下のOBが気を利かせず、ラストパスを供給しないものだから得点しませんでした。私がMFで入ったらお二方にスルーパスを出して得点機を演出したはずです⁷(できたかどうかは分かりませんが意気ごみでは)。ともかく、**二冠会のレジェンドのお二方、ありがとうございました**。OBのプレーですが、対戦した1年生主体のチームと比べスキルの差が天と地ほどあり、巧い巧い。もちろんOBは現役時代よりも動きは遅いし少ないですが、老獪なコントロールとパス回しは健在。今年も現役生にサッカーのお手本を示して頂きました。また、OBだけでなく、私と同期の**山東43回卒の女子マネージャー**も来てくれました。**OGの参加も大歓迎の企画ですよ～**。

恒例の2年生対3年生は、2年生が追いつがる3年生を最後に突き放し、2対1で勝利。**3年生に花を持たせないあたり、勝負に辛い山東の伝統?を思わせた。**

プレーの後は、中庭移動。**各種ドリンクを左手に、箸を右手にもち(右利きの場合)、佐門のモツ煮に舌鼓を打つ**。プレーで汗をかいた後に、このしょっぱい味付けがまた効く。味を薄めたい場合は豆腐で調整すればよい。「**プレーの後にモツ煮**」というこの企画を考えて下さった**山東サッカー部後援会の武田元会長(故人)と奥山前副会長に改めて感謝**。

少し腹を満たした後は、3年生代表の受験に向けた決意の言葉と2年生代表の今後のプレー面での決意の言葉で締めて、終了。今年も、「**山東サッカー部はそこで育ち旅立つ場所**

⁶ 現在は、照明をつける時間にはもう中庭に移動しています。昔は部員も多かったのも、皆が満足するまでプレーするのに、時間がかかったということでしょうか。

⁷ 私は、痛風発作のため・・・レフリーのみでの出場となりました。

であり、帰ってくる場所でもある」という思いを深くいたしました。

後援会の皆さま、重ね重ねありがとうございました。

Y2B第11節 米工戦はドロー

8月21日(日) Y2B 第11節米沢工業戦が県総合運動広場サッカー場(天然芝)にて行われました。米工とは、今シーズン、Y2B 第3節にて4対4の打ち合いのドローを演じている。そして、その後の県総体初戦では何とか1対0で辛勝している。**今シーズン早くも公式戦にて3度目の対戦**。ただし、山東も代替わりしているし、米工も3年生がまだまだいるとは言え主力何人かが引退しており、別チームになっている。ということで、新しいチーム同士の新たな対戦と言える。**どちらも夏休みを経て、夏の特訓の成果を示したい試合**でもある。場所は久々の県サッカー場。よくトーナメントの「上の山」にて利用されるピッチだが、なかなかそこに行けないために思い出も作れていない⁸。

当日、猛暑。人工芝は熱がこもるので、熱を吸収してくれる天然芝の方がピッチコンディションは良い。そして、状態にもよりますが、やはり人工芝よりも天然芝の方が気持ちいい。私も、現役時代は天然芝だと足が速くなったように感じられ、プレーも調子が良いことが多く、天然芝でのプレーは高揚したものでした。米工は競り合いの強さと縦に速い攻撃を前面に押し出してくる。山東はその圧力に負けずに戦いつつ、**丁寧にプレーできるところを見極め、展開を落ち着かせる試合運びもしたい**ところ。**清野総監督(後援会名誉会長)、後藤報道局長、そして清野総監督と同期の工藤先輩**という「いつもの御三方」がいらっしゃる。保護者の方も久しぶりの公式戦を待ち望んでいたかのように、ご参集頂いている。暑いコンディションではあるが、あとは選手が頑張るだけ。

試合が始まると、まずペースを握ったのが山東。手数をかけない攻撃ながら、**3年FW ユート**を中心に個人技で相手ディフェンスをいなし、ゴールに迫る。**寝会部長FW タカヒラ**と**可愛い風貌ながらプレーは獰猛のMF キクちゃん**という公式戦初先発?の1年生コンビが、攻撃に新鮮味を与えている⁹。しかし、試合の入りの数度のチャンスを逃している、やはり相手に試合は傾くもの。山東左サイドをたびたび崩され、そこから決定的シーンを前半だけで少なくとも2度作られる。**2年主将 GK ハレル**がストップしたり、相手が外してくれたりして事なきを得ましたが、決して安定した前半の試合運びではなかった。**ポランキで先発の2年ベジータ**も暑さの故か元気がない(女の子のことばかり考えてサッカーに集中できないヒロヒサ症候群にかかったのでしょうか)。**2年MF アダキ**に至ってはプレーに迷いがみられる(ボールを見るだけで精一杯で相手・味方をよく観察できていない証拠)。そんな、決して良いとは言えない前半終盤、「スコアレスかな～」と思っていた矢先に**タカヒラ**が**ドリブルシュートを突き刺し、先制に成功**。そして前半終了、という最高の形でハーフタイム入り。

後半は当然米工の猛反撃を喰らうか、と心の準備をしていましたが、危ないシーンが多

⁸ たとえば、昨年の選手権3回戦の山形明正戦に勝っていれば、準々決勝日大山形戦を県サッカー場で戦うところでした(実際は負けたので、日大山形対山形明正戦が行われた)。

⁹ この二人は夏の練習試合等にてA戦で繰り返し出場しているため、我々の目には新鮮ではないのですが、保護者・OB・相手チームには新鮮だったのではないのでしょうか。

かったのは前半の方で、比較的守備は安定。とはいえ、手厚く攻め続けて、相手をゴール前に釘付けにしている、という試合運びでは全くない。攻めているようで、崩せていない典型のような試合。そして時間とともに攻撃がアバウトになってくる。そんな中、**アンラッキーな形で相手に与えた CK から失点し、1対1**。やはり、決め手を欠くと、こういうことにもなります。この CK、左 SB リキがしっかり体を入れて相手ドリブルのボールをそのままゴールライン外に出した、すなわちゴールキックで再開が正解だったように見えてましたが、レフリーには体を入れるために出した右足がボールに触れたと見たのかもしれない。CK との主審の判定（プレー近くにいた副審はどちらかに旗を上げず主審に下駄を預けた）。キックされる前に、「ジャッジミスの疑いのあるこの CK で決められたくないが、得てしてこういう場面で・・・」と悪い予感はしていましたが、相手の力強いヘディングが一枚上手でした。**やはりレフェリングは人間がすることであり、その判断に対応できない方が負け**。レフェリングにて幸運もあれば不運もある。実際 CK の判定で言えば、Y2B 第 4 節東海 B 戦後半の山東の 4 点目は、ジャッジミスで山東に与えられた CK から得られたものでした。要は、**自分の不運ばかり嘆くのは幸運に気付かない人間のすること**、と自分に言い聞かせたい。さて、その後、後藤報道局長が HP 上で褒めて下さったように、「暑いんだから引き分けでいいか〜」とはせず、勝ち越しを目指してギアを上げて攻めた姿勢が良かった。途中交代で出場した **1年フトシ**の積極的なプレーも光りました。フトシは恵まれていたり優れている部分もあるのですが、「俺に寄せせ」という私の強さに欠ける。いや、これだけなら「サッカー選手にも優しい人はいるからね〜」と反論されて終わりですが、「私の弱さ」ゆえに自分のイメージやビジョンを味方に伝えられない、となると、優しいではなく単に消極的な選手（何やりたいのかよくわからない選手）となっちゃう。今期は量産しましたが昨シーズンまで全く得点せず¹⁰「相手に優し過ぎる」フレンドリーミツイの異名を取った **3年サンペー**も、サッカーのイメージ・ビジョンは明確に持っていて、それに合わない必死にそれを周りに伝えていました。フトシにはその姿勢が足りない¹¹。同様のことは、最後に出てきた **1年ヤマサン**にも言える。ヤマサンにも「俺がやってやる」という肉食な姿勢がほしい。まだ与えられた人参を小刻みに食べ続けるウサギに留まっています。ともかく、最後の最後まで勝ちを目指しましたが、そのままタイムアップで、**1対1のドロ**。

勝ち点 1 を得て、最低限の結果は出したと思います。1st Defender が限定を維持ながら 2nd 以下が連動して守るという守備の連動性は出てきたように思われ、チームは少しずつ良くなってはいます。簡単に結果は出ませんが、目の前の一戦に集中したいと思います。次戦は東海 B 戦です。厳しい試合になろうかと思いますが、ひたむきに戦いますので、応援よろしくお願い致します（山東祭 2 日目ですが公欠にて出かけます——私は 3 年担任ですがなげうって出かけます）。

8月27日（土）Y2B第12節 VS 東海大山形B 10:00～ @白鷹町東陽の里G

¹⁰ できるのに、あえてしない、と皆から解釈されていました。見兼ねた監督からも「あの試合まで得点できなければ坊主」の指令も飛び出しました（それに対するサンペーの返答は「ぼく髪命なんで」でした・・・）。

¹¹ 欠けているのは姿勢であって、そもそもイメージ・ビジョンに欠けるのではないことを願う。